

ピアソン宣教師夫妻



設計者 ヴォーリス

人間愛伝えた 宣教師の家



JR北見駅から歩いて15分ほどの高台に2階建て洋館「ピアソン記念館」は建っている。米国人宣教師、ジョージ・ベック、アイダのピアソン夫妻が3本の柏があったこの高台を「三柏（みかしわ）の丘」と呼んで1914（大正3）年に建てた私邸だった。

27歳のピアソンが来日したのは1888（明治21）年。93年ごろ、生涯の伝道の地として北海道へ移った。94年、同じ宣教師のアイダ・ゲップさんと結婚。静かで優しく語り、聖者の雰囲気を持つピアソンさんとは対照的に、アイダ夫人は強い自尊心と使命感に満ちたタフな女性だったという。



この設計図どおりには建築されなかった。建築を手がけた地元の棟梁が西洋建築を図面どおりに建てる技術がなかったと思われる。（開館30周年記念誌より）

私と遺産

命ある限り保存に力

北見ピアソン会会長で元市議の水津仁郎さん（78）は、カシワ、ハルニレなど30種類、160本の木に囲まれた館を訪れるたびに「命のある限り、保存に力を注ぎたい。大事な宝物を後世に残すのは義務」と強く思うという。

水津さんの家は菓子店。父親に手を引かれ、焼き立ての食パンを毎朝、夫妻に届けた。

「節くれだった大きな手で頭をなでくれたピアソンさんのぬくもりが、今でも鮮明によみがえります」

建築から88年たち、老朽化は著しい。水津さんは「幸い設計図が残っているので、建築当時の建物を再現したい。それに向かって、若い人たちに会員の輪を広げる事が不可欠」と話す。

「ピアソンさんの遺産はさすがさと、わけへだてのない人間愛」という。

まちづくりと遺産

入場者大幅増は確実

ピアソン会は、ピアソン夫妻の足跡と記念館を知らせようと活動している北見市の市民団体を